

果樹の台風被害後の対策

倒伏による断根被害があっても早急な対策により、次年産以降の生育、生産に与える影響はかなり少なくすることが可能です。

最善の方法は直ちに立て直すことである。

被害樹の早期回復のための具体的方法

〔倒伏当年の冬季せん定〕	
半倒伏樹	断根の率は30%以下と考えられるので例年通りのせん定でよい。 極端な強せん定はさける。
完全倒伏樹	断根率が50%程度の場合、根が切れた側を強めにせん定し、若い徒長枝などを多めに残す。これは翌春の葉数の確保と徒長枝などの利用により、空間を埋めることを目的とする。
被害樹共通	樹体に残っている果梗（つる）・先枯れした部分については丁寧にせん除する。 これは「ふらん病」対策でもあるので吟味する。
〔翌春の肥培管理〕	
立て直した樹	通常の施肥に加え、乾燥防止を目的とした樹冠下への堆肥マルチ・敷きわらなどを 実施した方がよい。 樹勢を見ながら必要によっては追肥を実施する。
樹勢の弱い樹	通常の施肥に加え、場合によっては窒素成分を含んだ資材の葉面散布を行う。
〔結実管理〕	
立て直した樹	貯蔵養分が不足しているものと考えられることから摘花による早期の着花制限が必要である。 樹勢が回復しない場合は着果量を制限するがまったく着果させないと樹が伸びすぎる恐れがあるため適量の着果は必要である。最終的な着果量は樹勢を見て判断する。 （新梢の伸び、葉色、葉の大きさ等）
極端に樹勢の弱い樹	早めに全摘花（果）を実施する。